現代ファッションの100年

●印の図版は
杉野学園衣裳博物館の
所蔵品です。

1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2020

- 第一次世界大戦 1914-18
- ロシア革命 1917
- バレエ・リュス、パリ公演 1909

P・バターフィールド
「リバティ・プリント〈あじさい〉」
1896 ロンド

ジャポニズム

ホイッスラー
「陶磁の国の姫君」
1863-64 ロンドン

唯美主義運動

ゴドウィン

リバティ

改良服運動:19世紀後半から20世紀にかけて、ヨーロッパを中心に、コルセットでウエストを締めつけない改良服の試みが行なわれた。アメリカのブルーマー服をはじめとし、ポール・ポワレや唯美主義運動、ラファエル前派、ウィーン・ゼセッションやウィーン工房、ロシア構成主義などのデザイン運動の建築家やデザイナーが、機能的で美的な衣服デザインを提案した。

主に芸術家や知識階層に支持された改良服は、女性解放運動という時代の動きと並行した、近代衣服の先がけとなるものだった。

イギリス合理服協会

改良服運動

アレクサンドル・ロドチェンコ
「作業着」
1922 ロシア

ワーヴァラ・ステパーノヴァ
「スポーツ着」
1924 ロシア

ロシア構成主義

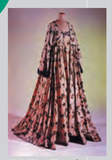
- ステパーノヴァ
- ロドチェンコ
- ポポーヴァ
- エクステル

リューボフ・ポポーヴァ
「舞台装置（紫色たち〈ゴキッコ〉）」
1922 ロシア

舞台衣装

オスカー・シュレンマー
「舞台衣装（二組のバレエ）」
1926 バウハウス

- シュレンマー


コロマン・モーザー
「改良服」
1901–06 ウィーン

ペーター・ベーレンス
「改良服」1902 ドイツ

- クリムト
- モーザー
- フレーゲ
- ホフマン
- ヴィスグリル

ダンテ・ガブリエル・ロッセティ
「プロセルピナ」1874 イギリス

「クリムトとフレーゲ」
1905 ウィーン

ラファエル前派

ゼセッション・ウィーン工房

アーツ・アンド・クラフツ

ラスキン　モリス

- 第1回ロンドン万国博覧会 1851

ドイツ工作連盟

バウハウス

- ドイツ軍、パリ占領 1940

●シャルル＝フレデリック・ウォルト
「イヴニング・ドレス」1880頃
フランス

ウォルト

アール・ヌーヴォー

ヴァン・ド・ヴェルド
「改良服」1895 ベルギー

ヴェルド　ベーレンス

マン・レイ
「シャネルのボートレート」
1935 フランス

ポワレ

シャネル

- アール・デコ展 1925

ソニア・ドローネー
「スポーツ・コート」1926

アール・デコ

オートクチュール

- パリ・オートクチュール組合設立 1867
- キャロ姉妹
- バキャン

オート・クチュール:高級衣裳店、とりわけ高級注文服店のことをいう。オートクチュール組合に所属し、クチュリエ（デザイナー）が自分のアトリエを持ち、マヌカン（モデル）に着せて、店内のサロンで年2回の展示会を顧客相手に開くことが義務づけられている。この方式は、イギリスのシャルル＝フレデリック・ウォルトが基礎を築いたとされる。

クチュリエと顧客との間で交わされる数回の仮縫い、試着によってできあがる1点ものの高級注文服は、1960年代以降のプレタポルテ（高級既製服）と区別される。

パリコレクション

ジョルジュ・ルパプ
「ポワレのイヴニングドレス」
GBT 1912 フランス

ヴィオネ

マドレーヌ・ヴィオネ
「イエロードレス」
1918-19 パリ

- ランバン
- ニナ・リッチ
- バレンシアガ

スキャパレリ

エルザ・スキャパレリ
「カクテル・スーツ」
1937

フォルチュニイ

●マリアノ・フォルチュニイ
「デルフォス」
1910頃 イタリア

キュビズム

- タイアート

未来派

- 「ガゼット・ドュ・ボン・トン」誌（仏）
1912-25

デ・ステイル

ダダ

シュルレアリスム

マン・レイ
「長い髪」
1930 パリ

ファッション写真

- 「ジュルナル・デ・ダム・エ・デ・モード」誌（仏）
1912-14
- マン・レイ

VOGUE
Foreçast
Autumn Fashions
「VOGUE創刊号表紙」
1916 イギリス

ファッション雑誌

- 「ハーパース・バザー」誌（米）1867
- 「ヴォーグ」誌（米）1892

ファッション雑誌の普及:18世紀後半に生まれたファッション雑誌は、以来、印刷技術の発達と共に続々と創刊された。最新のファッション、趣味娯楽に関する記事、小説や詩などが掲載されたこれらの定期刊行物は、ファッションメディアとしての中心的役割を担った。

20世紀には、写真印刷技術の発達によって、ファッション写真がすでに登場していたが、「ガゼット・ドュ・ボン・トン」など、ファッション・プレートと呼ばれる美しい手彩色版画を挿入した、芸術性の高い雑誌が刊行された。

ブルーマー運動

N・カーリア
「ブルーマー服」1851

シンガー、ミシン実用化 1851

- 鹿鳴館完成 1883

北欧ファッション

マリメッコ

ヴォッコ

北欧ファッション:パリを中心とするヨーロッパのファッションが毎年のように新しい流行を発するー方で、北欧では、自然と風土に根ざした独自のファッションを生み出していた。

フィンランドを代表するヴォッコ（Vuokko）の素材に忠実で、シンプルで機能的なデザインは、三宅一生に影響を与え、マリメッコ（marimekko）では現在、日本人デザイナー石本藤雄が活躍するなど、日本とのつながりも深い。

「VUOKKO」
1987 フィンランド

「marimekko 」
1990頃 フィンランド

新しいファッション論

新しいファッション論:1970年代頃から、ファッションを専門としない哲学者、社会学者、思想家、評論家たちが、モードについて語りはじめた。ロラン・バルト、ルドフスキーをはじめとし、近年、日本では、吉本隆明、鷲田清一、北山晴一らが、モードを美、性、心理、社会、経済、大衆文化の様々な角度から論じている。それは現在、ファッションが単なる衣服の領域にとどまらず、様々な学問領域を超えた現象であることを示している。

ポストモダン

1960年代のファッション: 1960年代以降、戦後の社会変動や既成社会に対する反体制ムードが若者たちの間に流れ、音楽、美術、ファッションなどに反映した。

ヒッピーやサイケデリック、ジーンズやTシャツ、ミニスカートといった若者たちの間で生まれたファッションは、のちにストリートファッションと呼ばれ、パリコレの正統ファッションに対するアンチ・モードを示した。それはパリコレのデザイナーにも影響を及ぼし、モードの多様化を促すことになった。

ユニバーサル ファッション:世界中で高齢化が進んでいる現在、さまざまな国でユニバーサルデザインが注目されている。衣服の分野では、ユニバーサルファッションと呼ばれ、年齢、体格、障害を超えた誰もが楽しめるファッションが、企業や非営利団体によって取り組まれている。

「ユニバーサルファッション」

ユニバーサルファッション

サスティナブルファッション：2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGｓ）は、ファッション界においても多くの課題に向き合うことになる。製造・廃棄における環境負荷や衣類ロスなどの問題解決に向けて、企業や消費者に**よる循環型ファッションの取組みが始まっている。**

サスティナブルファッション

ジェンダーレスファッション

- アメリカ同時多発テロ 2001

クリスチャン・ディオール
「ニュールック」
1947 パリ

「ジーンズ」
リーバイス社
1950 アメリカ

「ミニスカート」
1960年代 ロンド

「ヒッピー」
1970年代

「パンク」
1970年代

- ベトナム戦争
- オイルショック 1973

ライン時代

ディオール

アンチ・モード

モードの多様化

- OSソフトWindows発売 1985
- インターネットの時代へ
- リーマンショック 2008
- 湾岸戦争勃発 1991
- ジヴァンシイ
- シャネル、メゾン再開 1954
- 森英恵

プレタポルテ:オートクチュールが1点ものの高級注文服を扱うのに対し、プレタポルテは、オートクチュールのデザインをもとに、ある程度の量産を前提に規格化された高級既製服のことをさす。1960年代には既製服業界からの影響を受け、多くのオートクチュールのデザイナーたちがプレタポルテを手がけるようになっていた。時代の流れによって1973年にオートクチュール組合が機構改革され、プレタポルテ組合が併設される。昨今では、多くのデザイナーは、むしろプレタポルテに力を入れている。現在ではパリ以外でも、ニューヨーク、ミラノ、東京といった世界の主要都市でコレクションが行なわれている。

- ピエール・バルマン
- ロンドンファッションデザイナー連盟発足 1941

プレタポルテ

- パコ・ラバンヌ
- マリー・クワント、ミニスカート 1961
- クレージュ、ミニスカート 1965
- パリ5月革命 1968
- ヴェルサーチ
- ゴルチエ
- ラクロア
- ヴィクター＆ロルフ
- ガリアーノ

パリコレクション

- オートクチュール組合機構改革、プレタポルテ設立 1973
- ラガーフェルド

※コレクション＝ファッション・ウィーク

サンローラン

- ミッソーニ

イヴ・サンローラン
「モンドリアン・ルック」
1966-67 秋冬

ニューヨークコレクション

ミラノコレクション

- ケンゾー
- ヨージ・ヤマモト

アメリカファッション

クレア・マッカーデル
「水着」1945 アメリカ

- ノーマン・ノレル

- 米国ファッションデザイナーズ協会発足 1962

三宅一生
A-POC
「King&Queen」
1999春夏

「コム・デ・ギャルソン
〈ESSENCE OF QUALITY展〉」
1993 東京

アントワープ

「アントワープ王立芸術アカデミー」
2001 ベルギー

- 東京ファッションデザイナーズ協会発足

アメリカ既製服産業

- デュポン社、ナイロン発明（米）
1936

アメリカン・ファッション:第二次世界大戦の影響で、一時期アメリカにはパリからのファッション輸入が途絶えた。すでに機械による大量生産方式が確立していたアメリカでは、既製服産業が発達し、化学繊維の開発も相次いでいた。

クレア・マッカーデルやノーマン・ノレルは、大量生産に向くシンプルで機能的な服のデザインを考え、パリのプレタポルテとは異なるアメリカ独自のファッションを生み出した。

- パンディ・ストッキング登場 1963

三宅一生

川久保玲

日本のモード

日本のモード:1970年代以降、日本人デザイナーたちがパリで活躍し、世界的評価を受けるようになる。三宅一生の「一枚の布」、川久保玲や山本耀司の「黒の衝撃」と言われた無彩色の服、これらの素材、色、形、身体を一体化させたデザインは、西洋、東洋の枠を超え、また、ファッションの枠をも超えて、デザイン界において、表現の質の高さを獲得している。

杉野服飾大学オープン教育リソース　グラフィック年表「現代ファッションの100年」　2024年改訂　COPYRIGHT(C)2001 SUGINO GAKUEN ALL Rights Reserved